

権 兵 衛

作・演出 岡部 耕大

— 荒畑家の人々 —

1995年3月20日、東京では「地下鉄サリン事件」が起こった。その日、佐賀県鹿島市では「レイプ事件」が起こった。一人で佐賀市から鹿島市へドライブに来ていた花園玲子(27歳)が「底なし沼のお稲荷さん」の境内でレイプをされた。狭い土地に騒動が勃発した。荒畑権兵衛(75歳)の家は鹿島市の郊外にある藁葺き屋根の二階屋である。戦争から帰り刑事をしていた権兵衛は隠居の身である。息子の努(52歳)は県庁へ勤めている。部長へ昇進する噂もある。「父権の座」を巡っての権兵衛と努の確執は激しい。

権兵衛「ほれ。おまえの父権の座は拵えたいけん、拗ねとらんで座らんか」
 努 「俺はここでよか。どうせ親父の傀儡やろが」
 権兵衛「ほう、地方の高卒にしては難しか言葉ば知っとなあ」
 努 「(怒って)高卒で充分といったとは、親父じゃなかか」

努の息子大作(19歳)は2年の浪人をして佐賀大学教育学部に合格した。娘の優子(25歳)は小城の老舗の羊羹屋への縁談がまとまった。荒畑家に幸せがまとめてやって来た。

幸子 「はい、幸せはまとめてやって来るですけん」。

努の妻の幸子(50歳)は幸せの絶頂にあった。しかし、大作の様子がおかしい。部屋に閉じ籠ったままである。権兵衛のかつての部下であった刑事黒田進(50歳)が部下の池永聡(28歳)を伴って荒畑家を張り込み始めた。隣家の孤塚トミ(72歳)は噂好きである。その日、荒畑家を努の部下である山辺健太郎(35歳)が訪れた。不倫の後始末の相談である。

努 「桜井恵子君は、妊娠はしとるか」
 健太郎「いえ、妊娠はしとらんです」
 努 「えっ、妊娠はしとらんとか」

権兵衛「ほう。努のケースよりはまだまだしぞ、なあ、努」
 努 「お父さんは黙っとってください」。

荒畑家に久しく絶えていた無言電話が掛かり始めた。

幸子 「無言電話ばってん、だれからの無言電話かはわかつとよ」
 努 「しつこかなあ」。

大作も無言電話に震えている。遠くからは「面浮立」の囃子が聞こえている。

努 「(電話へ)あんた、花園玲子やろが。黙っとてもわかつとよぞ」
 池永 「花園玲子。へえ」
 権兵衛「なんな」
 池永 「レイプ事件の被害者と同じ名前ですよ」

花園玲子のかつては努の不倫相手であった。玲子は教育者であった花園学(60歳)とユキ(55歳)の一人娘である。

学 「もう、この娘はわしの娘ではなか」
 ユキ 「あんた」
 玲子 「ん」
 ユキ 「……。もしかして妊娠しとつやなかと」

玲子が薄笑いをする。かくて荒畑家の家族崩壊は始まった。不動産屋の末永洋輔(19歳)が「荒畑家」の値踏みをしている。抱腹絶倒の喜劇は戦争を体験した人間の恐ろしさ、団塊の世代の責任、戦後の教育の荒廃の原因、そして、女の執念と復讐の恐ろしさへと逆流する。「悲劇は喜劇の中に棲む」。岡部耕大が渾身の筆で「現代」と「人間」を問う傑作喜劇。



黒田進
見上 裕昭



荒畑優子
岡 夏海



荒畑大作
小林 洋貴



荒畑幸子
檜 よしえ



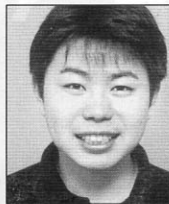
荒畑努
小澤 俊明



荒畑権兵衛
矢野 宣



花園玲子
中村 真知子



池永聡
小澤 浩明



花園ユキ
茅根 直美



花園学
小池 雄介



孤塚トミ
たうみあきこ



末永洋輔
昇 努樹



山辺健太郎
服部 桂吾

六本木俳優座劇場 TEL.03-3470-2880

タイムテーブル

4月	3	4	5	6	7	8
	火	水	木	金	土	日
14:00					○	○
18:30	○	○	○	○		

チケット 発売開始 2月20日(火) 全席指定
 料金 一般 4,500円
 高校生以下 3,000円
 問い合わせ: 前売り/岡部企画 044-933-9754
 チケットぴあ 03-5237-9988

制作 岡部 耕大
 演出 岡部 耕大
 美術 孫福 剛久
 音楽 三塚 幸彦
 照明 西尾 憲一
 音響 夕チハナ音響
 衣装 石原 叔子
 振付 古賀 豊
 監督 赤崎 晴房
 舞台 山本 悟正
 写真 岡部 企画

スタッフ